

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立弥生小学校

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>輝く笑顔 弥生っ子 やさしく助け合う子 よく学び よく考える子 いきいき活動する子</p>	<p>今年度の指導の重点</p> <p>【豊かな心】 自他共に大切にし、円滑な人間関係を育成する集団作り 道徳的実践力の育成 コミュニケーション能力の向上</p> <p>【確かな学力】 学ぶ楽しさや学習意欲を喚起する授業作り 体験的な学習、問題解決的な学習の充実 基礎・基本の確実な定着 家庭学習の充実</p> <p>【健やかな体】 基本的な生活習慣・運動習慣の確立(体力向上) 食に関する指導の充実 日常体育の充実と外遊びの奨励・充実 危険予知、回避能力の育成</p>
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p> <p>【学力状況調査の結果】 全国 国語Aと算数Aは平均正答率が県と全国平均を上回った。 国語Bと算数Bは平均正答率が県と全国平均を下回った。 算数Aの無解答率が県と全国より全て下回っていた(無解答が少なかった)。 県 国語・数学・理科が、県の平均正答率を上回っている。 国語・数学の活用問題の平均正答率は、県平均よりも上回っている。 社会が県の平均正答率を下回った。しかし、資料活用の技能については県平均正答率を上回っている。</p> <p>【学習状況調査の結果】 ほとんどの児童が、朝食を毎日食べて登校することができている。 全体的に毎日同じ時刻に寝たり、同じ時刻に起きている。 自分にはよいところがあると思っている児童が若干少ない。 1日当たりのテレビゲームをする時間が全国よりもかなり上回っている。 1日の読書時間が全国の割合より低い、また、図書室や市立図書館等の利用の割合が全国より低い、学校のきまりを守れていない児童の割合が、全国平均よりも上回っている。</p>	
<p>成果と課題</p> <p>成果 国語や算数を中心に基礎基本の学力が定着してきている。(国語A 本校73.9% 岡山県71.4%)(算数A 本校80.2% 岡山県77.8%) 1日当たりの家庭学習1時間以上の割合が非常に多い。(本校23.7% 岡山県19.0%) 朝学習や補充学習で繰り返し練習し、算数Aの無解答者が全国より少なかった。</p> <p>課題 友達の前で自分の考えや意見を発表することを苦手としている児童が多い。(本校63.1% 岡山県49.1%) 友達と話し合うとき話や意見を最後まで聞くことができていない。(本校10.5% 岡山県7.8%) 「読書は好きではない。」と解答した児童の割合が多い。(本校38.2% 岡山県23.8%)</p>	<p>課題に対応した改善方法</p> <p>「考える、友達の意見等を聞く、発表する」ことを中心とする「学び合い」の考えを取り入れた授業改善を進める。 学習活動の流れを提示し、児童に学習内容を可視化する。 放課後の補充学習(げんぼ学習)を週1回(毎週金曜日)行い基礎・基本の定着を図るとともに、家庭学習充実へのきっかけ作りとする。 高学年の算数では、3コース(基礎・充実・発展)の習熟度別指導を引き続き行い、個にあった指導の充実を図る。 朝学習や授業の中で「東書Webライブラリ」を活用して学びの定着を図る。 朝学習や調べ学習等を活用して学校での読書時間や機会を増やすとともに、家庭での読書習慣の拡充に努める。 家庭での生活習慣や学習習慣を整えることについて学年PTAワークショップ、学級・学年懇談、北陵中ブロック家庭学習強化週間、メディアコントロール等で啓発していく。 委員会活動や縦割り班活動等を通して、人のために働く経験を積みませ児童の自己有用感を高める。</p>
<p>取組の検証方法及び検証時期</p> <p>2学期中に今年度の全国学力テストを再度挑戦して学習定着状況を確認する。 「到達度確認テスト」や「たしかめテスト」を行い、学習定着状況を確認する。 学期末に弥生小4つの取組「廊下は歩こう、職員室への入り方、放送は聞こう、挨拶・返事をしよう」の意識調査を行い、生活規律の徹底を図る。</p>	<p>達成目標(数値目標)</p> <p>朝学習や家庭学習を活用して、全学年1日30分以上読書をする児童の割合を60%以上にする。 家庭学習をする児童を100%に近づける。 弥生小4つの全取組で80%以上が、意識して取り組むことができるようになる。 「友達のいいところ」や「自分のいいところ」を3つ以上全員言えるようになる特別活動等を取り入れ、自己肯定感を高めさせる。</p>